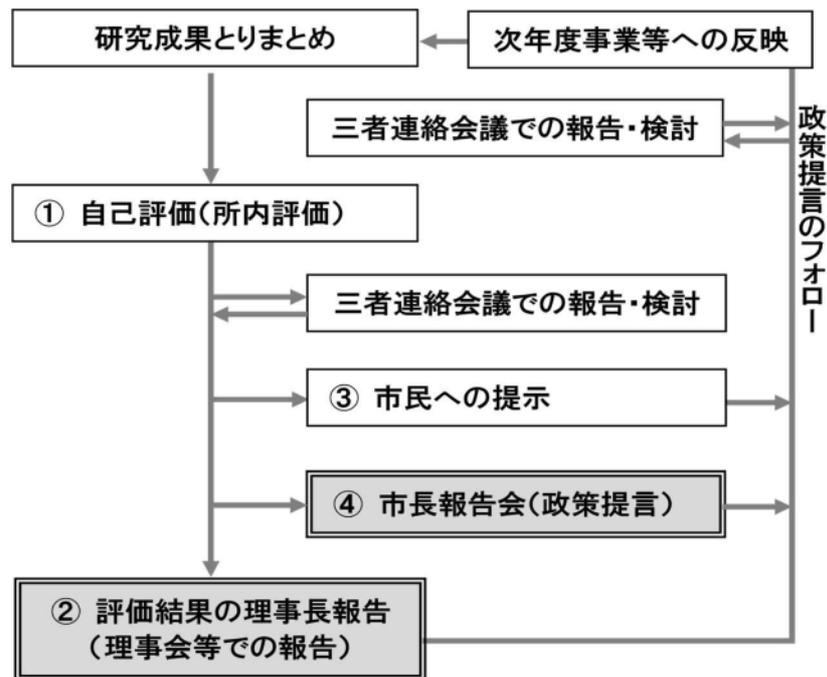


令和3年度研究成果の評価について

1. 中期ビジョンにおける評価の仕組み

【評価のプロセス】



【評価指標】

研究所の役割	評価指標
広義の都市 交通の研究	1) 外部学会誌・論文集等で発表した査読付き論文数
	2) 上記を除くその他学会・協会等で発表した論文数
	3) 論文賞等の受賞
	4) 競争的研究資金の獲得件数
交通 まちづくり の推進	5) 市への政策提案件数
	6) 豊田市はじめ行政等からの受託研究の受注件数(金額)
	7) 地域に関わる研究テーマの件数
	8) 地域活動への貢献(委員・講師等)
世界への 情報発信と 貢献	9) 国際会議での論文発表件数
	10) 国際セミナー・シンポジウムの開催
	11) 国際的な調査プロジェクトの実施
	12) 機関紙・年報の定期発行
	13) シンポジウム・報告発表会・講習会・セミナー等の開催数, イベント出展数
	14) 各種行事記録集の発行:種類
	15) マスコミの露出度:報道・出演回数

評価指標を用いた試行評価の結果

令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた大変厳しい社会環境となりましたが、概ね事業計画どおり、各種研究と関連事業を遂行できました。

一年間の成果をまとめると、定量的な指標による結果は次のとおりです。

役割	評価指標	H28-30 平均	R1 年度	R2 年度	R3 年度	
① 広義の都市交通の研究	1) 外部学会誌・論文集等で発表した査読付き論文数	17.3	23	12	18	↑
	2) 上記を除くその他学会・協会等で発表した論文数	20.7	19	22	14	↓
	3) 論文賞等の受賞	0.7	1	3	1	↓
	4) 競争的研究資金の獲得件数〔科研費〕	1.3	2	4	4	
	競争的研究資金の獲得件数〔その他〕	3	4	1	2	↑
② 交通まちづくりの推進	5) 市（地域）への政策提案件数	9	11	14	14	
	6) 受託研究の受注件数（件）	18	19	19	12	↓
	7) 地域に関わる研究テーマの件数	21.7	26	27	20	↓
	8) 地域活動への貢献〔委員・大学等講師〕	39.3	36	36	39	↑
	〔講演〕	26.7	34	10	14	↑
③ 世界への情報発信と貢献	9) 国際会議での論文発表件数	14	16	4	5	↑
	10) 国際セミナー・シンポジウムの開催	0.3	0	0	0	
	11) 国際的な調査プロジェクトの実施	0.3	1	1	2	↑
	12) 機関紙・年報の定期発行	5	5	5	5	
	13) シンポジウム・報告発表会・講習会・セミナー等の開催回数、イベント出展	14	16	10	14	↑
	14) 各種行事記録集の発行：種類	1.7	3	2	3	↑
	15) マスコミの露出度：報道・出演回数	9	5	2	2	

総括1：国際ジャーナルへの投稿やオンラインで参加する国際会議での論文発表に対応し、査読付き論文数や国際会議での論文発表件数の増加に繋がるとともに、科学研究費補助金や外部資金の獲得件数を維持・向上させられたことは評価できると考えています。

総括2：地域活動への貢献数が増加し市等への政策提案件数を維持する一方、受託研究や地域に関わる研究テーマ件数が減少していることから、研究活動の見直しの検討も必要であると考えます。

総括3：感染症対策を行いながら開催した設立30周年記念シンポジウムや同時期に実施した豊田市図書館との連携事業のほか、オンライン会議に対応することで講演活動等が増加し、コロナ禍に対応した情報発信ができました。